

損保ジャパンSRIオープン（愛称：未来のちから）

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

【設定日】 2005年3月25日

【決算日】 原則12月8日

運用実績

基準価額および純資産総額

基準価額	11,437円
純資産総額	15.57億円

※ 基準価額は、分配金控除後です。

構成比率

純資産比	
損保ジャパンSRIマザーファンド	99.16%
コール・ローン等	0.84%

期間別騰落率

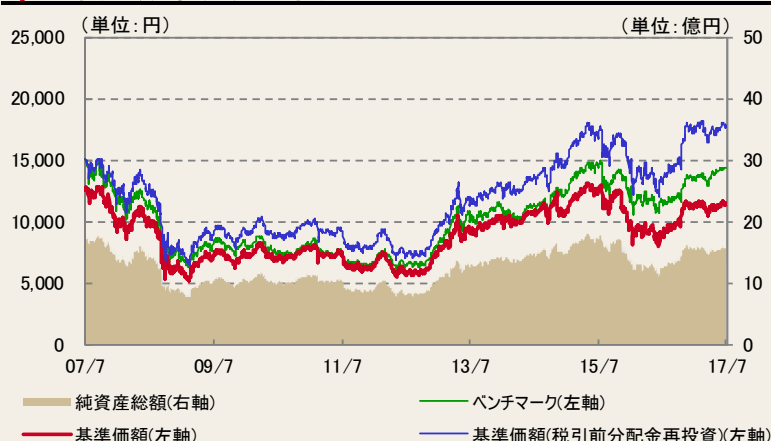
	当ファンド	ベンチマーク	差
過去1ヵ月間	-0.10%	0.42%	-0.51%
過去3ヵ月間	3.59%	5.67%	-2.08%
過去6ヵ月間	1.94%	6.37%	-4.43%
過去1年間	31.88%	22.37%	9.51%
過去3年間	29.84%	25.53%	4.31%
過去5年間	139.86%	119.83%	20.03%
設定来	78.04%	35.59%	42.45%

※ ファンドの騰落率は、当ファンドに分配実績があった場合に、税引前の分配金を再投資したものと計算しており、実際の騰落率とは異なります。

※ 設定来のファンド騰落率は、10,000円を基準として計算しております。

基準価額・純資産の推移

2007/07/31～2017/07/31



※ 基準価額(税引前分配金再投資)は、分配実績があった場合に、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したものと計算しております(以下同じ)。
 ※ 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(後掲「ファンドの費用参照」)は控除されております(以下同じ)。
 ※ ベンチマーク(TOPIX(東証株価指数))の推移は、表示期間の期首の基準価額(税引前分配金再投資)をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
 ※ 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

分配実績(直近5期分/1万口当たり、税引前)

2012年12月	0円
2013年12月	0円
2014年12月	1,000円
2015年12月	1,000円
2016年12月	500円
設定来累計	5,200円

※ 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。

構成比率(マザーファンド)

純資産比	
株式	99.19%
コール・ローン等	0.81%

業種別構成比率(マザーファンド)

業種	純資産比
銀行業	18.5%
輸送用機器	17.9%
卸売業	10.3%
情報・通信業	9.3%
保険業	8.5%
証券・商品先物取引業	8.3%
電気機器	5.9%
海運業	5.7%
医薬品	4.3%
その他	10.4%

組入上位10銘柄(マザーファンド)

銘柄名	業種	純資産比
1 第一生命HLDGS	保険業	5.0%
2 デンソー	輸送用機器	4.9%
3 日本電信電話	情報・通信業	4.9%
4 三井住友フィナンシャルG	銀行業	4.8%
5 日立	電気機器	4.7%
6 三井物産	卸売業	4.6%
7 野村ホールディングス	証券・商品先物取引業	4.5%
8 三菱UFJフィナンシャルG	銀行業	4.5%
9 トヨタ自動車	輸送用機器	4.5%
10 KDDI	情報・通信業	4.5%
組入銘柄数		34銘柄

業種配分(マザーファンド)

オーバーウェイト(上位5位)			
業種	純資産比	ベンチマーク構成比	差
1 銀行業	18.5%	7.7%	10.8%
2 輸送用機器	17.9%	8.7%	9.3%
3 証券・商品先物取引業	8.3%	1.1%	7.2%
4 保険業	8.5%	2.5%	6.0%
5 卸売業	10.3%	4.4%	5.9%
アンダーウェイト(上位5位)			
業種	純資産比	ベンチマーク構成比	差
1 電気機器	5.9%	13.6%	-7.7%
2 化学	0.0%	7.0%	-7.0%
3 機械	0.0%	5.2%	-5.2%
4 食料品	0.0%	4.5%	-4.5%
5 陸運業	0.0%	4.1%	-4.1%

損保ジャパンSRIオープン（愛称：未来のちから）

<ご参考>

日経平均株価・TOPIX動向（過去3年） 2014/07/31～2017/07/31



日経平均株価・TOPIXの騰落率（対前月末）

	日経平均株価(円)	TOPIX(ポイント)
2017年6月30日	20,033.43	1,611.90
2017年7月31日	19,925.18	1,618.61
騰落率	-0.54%	0.42%

TOPIX業種別騰落率(対前月末、東証33業種)

上位5業種	
業種	騰落率
1 鉄鋼	7.39%
2 非鉄金属	5.66%
3 繊維製品	4.22%
4 電気機器	3.59%
5 輸送用機器	3.45%
下位5業種	
業種	騰落率
1 銀行業	-4.42%
2 パルプ・紙	-3.59%
3 ゴム製品	-2.88%
4 陸運業	-2.65%
5 不動産業	-2.56%

出所：Bloomberg

市場動向と今後の見通し

○先月の市場動向

7月の国内株式市場は月間ベースで+0.42%となりました。米国の経済政策などをめぐる不透明感や、北朝鮮によるミサイル発射などの地政学リスクなども意識されたことにより、買いが続かず、膠着感のある非常に値動きの小さい一ヶ月となりました。

上旬は、好調な日銀短観・米国雇用統計（用語解説1）の結果や、欧米と日本の金融政策の方向の違いから、日米金利差拡大が意識され、円安が進行したことで、株価は上昇しました。

中旬は、イエレン FFRB（米連邦準備理事会）議長の議会証言を受けて利上げペースが緩和されるとの見方が広がったことから円安の先安感が後退し、外需株・金融株を中心に上値の重い展開となりましたが、日銀の金融政策決定会合（用語解説2）が現状維持となったことによる安心感や、米主要株価指数が過去最高値を更新するなど好調さを維持していることなどから、株価は上昇しました。

下旬は、企業の決算発表が本格化し、好決算を発表した一部銘柄には買いが入りましたが、後半にかけて、米トランプ政権の行方や北朝鮮情勢などの外部環境に対する不透明感が高まったことにより、国内株式市場は上値の重い展開となりました。

○今後の見通し

当面の国内株式市場は、底堅く推移すると予想しています。

企業業績面では、国内外の経済が堅調に推移していることに加えて、会社側が期初段階で発表した業績計画の多くが保守的だったこともあり、第一四半期決算においては会社計画に対する順調な進捗が確認されています。市場コンセンサスを上回る決算も多く、企業業績のさらなる上振れへの期待が高まっていると考えています。

地政学リスクを含む内外の政治的な問題が長引くことへの警戒感のほか、世界的に正常化に向かい始めている金融政策への思惑などから、今後は世界的に金融市場の価格変動率が高まる可能性があります。しかしながら、国内株式市場については、前述の好調な企業業績に加えて、バリュエーションにおいて海外市場と比較しての割高感がないこと、企業による自社株買いや日銀によるETF買いなど株式需給面からの支えが引き続き期待できることなどから、下値余地は限定的であると見ています。

○今後注目されるニュース

7月下旬から本格化した企業の決算発表が8月の中旬まで続きます。好決算を発表した銘柄は買いが入り易い状況となっており、大型の外需銘柄を中心に決算動向が注目されます。

当ファンドの運用状況

○先月の運用状況

先月の当ファンドのマザーファンドの月間騰落率は、+0.04%とベンチマークであるTOPIX（配当込み）の月間騰落率+0.42%を0.38%下回りました。

要因別では、業種配分、個別銘柄選択ともにマイナス要因となりました。

業種では、輸送用機器、海運業のオーバーウェイト、陸運業のアンダーウェイトなどがプラス要因、銀行業、証券、商品先物取引業のオーバーウェイト、電気機器のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。

個別銘柄では、デンソー、日立製作所、三井住友トラスト・ホールディングスのオーバーウェイトなどがプラス要因、ツムラ、第一生命ホールディングス、T&Dホールディングスのオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。

7月は、ローソン、三菱地所、りそなホールディングスなどを購入し、大林組、鹿島建設、セイコーエプソンなどを売却しました。

○今後の運用方針

今後も「CSR評価」が高く、当社独自の分析で割安と判断される銘柄への投資を堅持していきます。

用語解説

1. 米国雇用統計

毎月第1金曜日に米国労働省から発表される経済指標で、特に注目されるものとして「非農業部門雇用者数」と「失業率」が挙げられます。米国の経済指標のうち最も早く発表されることや、他の指標に与える影響も大きく、経済全体の動きを検証できることなどから、多くの市場関係者から注目されています。

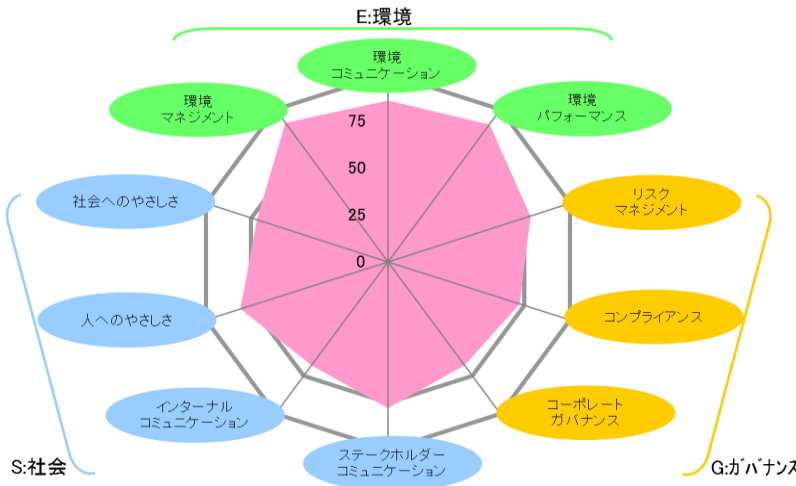
2. 日銀金融政策決定会合

日本銀行の最高意思決定機関である政策委員会が金融政策の運営に関する事項を審議・決定する会合で、毎年8回、2日間開催されます。委員は総裁、副総裁2名、審議委員6名の計9名で構成され、議案は出席委員の過半数をもって決定されます。政府からは財務大臣及び経済財政政策担当大臣が必要に応じて出席、議案の提出や意見を述べるがありますが、議決権はありません。

損保ジャパンSRIオープン（愛称：未来のちから）

銘柄紹介

マツダ（以下、同社）の、CSR（企業の社会的責任）の取り組みは以下のとおりです。



※各スコアを100%換算した値を記載しています。

E：環境

環境マネジメント
環境コミュニケーション
環境パフォーマンス

S：社会

ステークホルダーコミュニケーション
インターナルコミュニケーション
人へのやさしさ
社会へのやさしさ

G：ガバナンス

コーポレートガバナンス
コンプライアンス
リスクマネジメント

<CSR（企業の社会的責任）の評価の視点>

企業活動の公正性や倫理性、ステークホルダー（利害関係者）とのコミュニケーションや社会的課題への取り組みなどに対する姿勢を重視し、E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）の3つの視点から、企業の社会的責任（CSR）を評価します。

E（環境）

同社は、中期計画「マツダグリーンプラン」に沿って、クルマのライフサイクル全体での環境負荷低減を目指しています。「2020年までに全車平均燃費を2008年比50%向上」という目標を掲げ、エンジンの熱効率改善、車両の軽量化、減速時発生エネルギーの再利用、エンジンと電気モーターのハイブリッド化等に取り組んでいます。また、バイオ燃料・電気エネルギー・水素を利用した次世代車両の開発、排出ガスのクリーン化、リサイクルに配慮した開発・設計、サプライヤーにおける環境保全活動の促進を行っています。

S（社会）

同社は、快適に運転できるクルマの設計や、ドライバーの認知・判断を支援して安全運転をサポートする技術、事故による衝突の回避や被害の軽減を図る技術を開発しています。交通安全を推進するため、啓発活動や安全運転の実技指導、安全なクルマ社会の実現に向けたITS（高度道路交通システム）プロジェクトへ参画しています。また、「最大の経営資源は人である」との考えのもと、「選択と自己実現」「ワークライフバランスの促進」「人・仕事・処遇の最適なマッチング」を柱とする人事施策を展開しています。グローバルに活躍できる人材の育成、女性の雇用拡大や活躍の場の創設、健康の保持・増進のためのメンタルヘルスと生活習慣病への対策等を実施しています。

G（ガバナンス）

同社は、「未来においても地球や社会とクルマが共存している姿を思い描き、どんな困難にも独創的な発想で挑戦し続けています」というコーポレートビジョンを掲げています。基本的な考え方や価値観を集約した「Mazda Way」に基づき、従業員一人ひとりが行動を通じてビジョンを実現し、持続可能な社会の発展に貢献することを目指しています。「Mazda Way」を国内外グループ従業員全員に共有し、ポスターの掲示や携帯用カードの配布、コンピテンシー評価での行動の振り返り、成功事例の共有等により、浸透を図っています。

※SOMPO リスクアマネジメントおよびインテグレックスからの情報を基に損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントが作成

※ 上記内容は、組入銘柄の紹介を目的として弊社が作成しました。弊社は記載銘柄の推奨を行うものではありません。
 ※ 上記内容は、作成段階で入手しうる情報をもとに作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。
 ※ 当ファンドでは銘柄入替を行うことがあるため、現在の銘柄と異なる場合があります。

損保ジャパンSRIオープン（愛称：未来のちから）

Ⅰ ファンドの特色

- 日本の株式に投資します。
日本の株式に投資し、信託財産の中長期的に着実な成長を目指すSRI（社会的責任投資）ファンドです。
東証株価指数（TOPIX）※をベンチマークとし、中長期的にこれを上回る運用成果を目指します。
※ 東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。
東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- 企業の社会的責任に着目します。
SOMPO リスクアマネジメント社とインテグレックス社による企業調査結果を元に、「CSR（企業の社会的責任）」の観点から優れた企業を投資候補銘柄群とします。
- 相対的に割安と評価される銘柄に投資します。
委託会社独自の投資価値分析に基づき、相対的に割安度が高い銘柄を中心にポートフォリオを構築します。

Ⅱ 投資リスク

《基準価額の変動要因》

当ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動き等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属いたします。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

当ファンドの主なリスクは以下のとおりです。

※基準価額の変動要因は、以下に限定されるものではありません。

◆ 価格変動リスク

株式の価格は、国内外の政治・経済情勢、市況等の影響を受けて変動します。組入れている株式の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

◆ 信用リスク

株式の価格は、発行体の財務状態、経営、業績等の悪化及びそれらに関する外部評価の悪化等により下落することがあります。組入れている株式の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また発行体の倒産や債務不履行等の場合は、株式の価値がなくなることもあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

◆ 流動性リスク

国内外の政治・経済情勢の急変、天災地変、発行体の財務状態の悪化等により、有価証券等の取引量が減少することがあります。この場合、ファンドにとって最適な時期や価格で、有価証券等を売買できないことがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

また、取引量の著しい減少や取引停止の場合には、有価証券等の売買ができなかったり、想定外に不利な価格での売買となり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

《その他の留意点》

- ◆ クーリングオフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。
- ◆ 収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、収益分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。収益分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、収益分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ◆ マザーファンドに投資する別のベビーファンドの追加設定・解約等により、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を受ける場合があります。
- ◆ ファンドとベンチマークは組入銘柄が異なることがあり、ファンドの運用成績はベンチマークを下回る場合があります。

詳細については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

損保ジャパンSRIオープン（愛称：未来のちから）

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社が定める日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
換金代金	換金請求受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時まで（販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。）
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求を制限する場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	委託会社は、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、取引市場における流動性が極端に減少した場合、取引市場の混乱、自然災害、テロ、大規模停電、システム障害等により基準価額の算出が困難となった場合、その他やむを得ない事情があると判断したときは、購入・換金の受付を中止すること、及び既に受付けた当該申込みの受付を取り消すことができるものとします。
信託期間	無期限（設定日 平成17年3月25日）
繰上償還	受益権の残存口数が10億口を下回ることとなった場合、繰上償還することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、繰上償還させることがあります。
決算日	原則12月8日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時（年1回）、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※ 分配金を受取る一般コースと、分配金を再投資する自動けいぞく投資コースがあります。販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。各コースのお取扱いにつきましては、販売会社までお問い合わせください。
信託金の限度額	5,000億円
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	原則、毎決算時及び償還時に、交付運用報告書を作成し、あらかじめお申し出いただいたご住所に販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除の適用があります。なお、益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	購入価額に 3.24%（税抜3.0%）を上限 として販売会社が定めた手数料率を乗じた額です。 ※ 詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。	販売会社によるファンドの商品説明・投資環境の説明・事務処理等の対価
信託財産留保額	換金請求受付日の基準価額に 0.3% を乗じた額です。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.62%（税抜1.50%） を乗じた額とし、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。	運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率
	委託会社 年率0.70%（税抜）	ファンドの運用の対価
	販売会社 年率0.70%（税抜）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
	受託会社 年率0.10%（税抜）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・手数料	以下の費用・手数料等が、ファンドから支払われます。 ● 監査費用 ファンドの日々の純資産総額に定率（年0.00324%（税抜0.0030%））を乗じた額とし、実際の費用額（年間27万円（税抜25万円））を上限とします。なお、上限額は変動する可能性があります。 ● その他の費用※ 売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等 ※ 「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。	<ul style="list-style-type: none"> ● 監査費用： 監査法人に支払うファンド監査にかかる費用 ● 売買委託手数料： 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 ● 保管費用： 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用

※ 当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間、売買金額等に応じて異なりますので、表示することができません。

損保ジャパンSRIオープン（愛称：未来のちから）

●税金

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金（解約）時 及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 法人の場合は上記とは異なります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

●委託会社・その他の関係法人

委託会社	ファンドの運用の指図を行います。 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者（関東財務局長（金商）第351号） 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 ホームページ： http://www.sjnk-am.co.jp/ 電話番号：0120-69-5432 ●クライアントサービス第二部
受託会社	ファンドの財産の保管及び管理を行います。 みずほ信託銀行株式会社 （再信託受託会社：資産管理サービス信託銀行株式会社）
販売会社	受益権の募集の取扱、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。

●委託会社受賞歴



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントはR & Iファンド大賞2010の「投資信託／総合部門」において国内株式総合「優秀賞」を受賞しました。

「R & Iファンド大賞」は、R & I等が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR & I等が保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR & I等に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。「投資信託／総合部門」の各カテゴリーは、受賞運用会社の該当ファンドの平均的な運用実績を評価したもので、受賞運用会社の全ての個別ファンドについて運用実績が優れていることを示すものではありません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- ◆ 当資料は、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社により作成された販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。当ファンドの購入のお申込みの際には販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずお受け取りの上、詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。
- ◆ 当ファンドは、値動きのある証券に投資しますので、基準価額は大きく変動します。また、外貨建て資産に投資する場合には、為替リスクがあります。投資信託は、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- ◆ 信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様様に帰属します。投資に関する最終決定はご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。
- ◆ 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ◆ 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- ◆ 当資料に記載されているグラフ・数値等は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。分配金に関しては、運用状況によっては、分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。
- ◆ ファンドマネージャーのコメント、方針、その他の予測数値等については、作成時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等により、当該運用方針やその他予測数値等が変更される場合があります。また、記載した内容は、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- ◆ 当資料に記載されている各数値は四捨五入して表示していることがありますので、誤差が生じている場合があります。
- ◆ 当資料に記載されている各事項につきましては、正確性を期しておりますが、その正確性を保証するものではありません。当資料に記載の当社の意見等は予告なく変更することがあります。

●販売会社（順不同、○は加入協会を表す）

販売会社名	区分	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業協会	備考
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○		
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○		○		
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第199号	○				
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○				
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○		

<備考欄の表示について>

- ※1 記載の日付より新規お取扱いを開始します。
- ※2 記載の日付以降の新規お取扱いを行いません。
- ※3 新規のお取扱いを行っていません。

<ご留意事項>

- ・上記掲載の販売会社は、今後変更となる場合があります。
- ・上記掲載以外販売会社において、お取扱いを行っている場合があります。
- ・詳細は販売会社または委託会社までお問い合わせください。